

# ICTを活用した県民の安全安心支援サービス先進モデル構築事業

—次世代型福祉安心システムの開発—

## Development of Welfare Support Services using Information and Communication Technology in Aomori Prefecture

-Development of Next Generation Welfare System for the Aged -

横濱和彦、鈴木翔一、楢引正剛、  
奈良岡卓也\*1、市川 昇\*1、佐藤雄太\*2、佐々木憲昭\*2、

(\*1株式会社サンライズ・エー・イー、\*2株式会社ジョイ・ワールド・パシフィック)

日本の出生率は人口を維持できる水準を下回っており、少子高齢化社会の到来が叫ばれ、高齢者単独世帯の増加により高齢者が社会的に孤立しないための対策が重要になってくると考えられる。高齢者への介護、見守りといった福祉問題は、人的対応が基本と思われるが、対応できる人員の確保には限界があり、それを技術的に支援する仕組みが早急に必要になると考え、近年急速に技術が進展している情報通信技術（ICT）を活用した高齢者の安全安心を見守るシステムを「緊急通報の住居内から生活圏への拡大」、「世代を超えて声や映像で楽しく交流」を基本コンセプトに開発を行っている。

今年度は、緊急通報モデルの検討と基礎技術の開発に取り組んだ。社会福祉法人青森県社会福祉協議会がサービス提供している福祉安心電話を参考に、ICTを活用した次世代型システムとして開発を進め、Android OSを搭載した次世代型福祉安心端末、Bluetoothで通信するペンダント型緊急通報ボタン、スマートフォンを用いた携帯型福祉安心端末を試作開発した。



次世代型福祉安心端末



ペンダント型緊急通報ボタン



携帯型福祉安心端末